



全ては子どもたちのために

壁面に掲示してご活用ください

共に歩まん

令和3年10月26日発行

第14号

長野県中信教育事務所



←過去の「共に歩まん」はこちら

シリーズ『指導と評価の一体化』～外国語科編「思考・判断・表現」～

中学校外国語科の表現領域（「書くこと」）における思考・判断・表現の観点に注目して、指導と評価の一体化について、中学生が書いた英文をもとに考えていきましょう。はじめに、「書くこと」の領域で、それぞれの観点は何を評価するのか、確認します。

観点	「書くこと」
知識・技能	英語使用の正確さ
思考・判断・表現	表現内容の適切さ
主体的に学習に取り組む態度	言語活動で表出された態度

ある学校のA先生は「書くこと」の授業で次のような言語活動を行い、生徒Bさんが下の英文を書きました。

<ALTに自分の街について紹介しよう>

Our city is famous for nature. We have many mountains. They are very beautiful. Also, we have some hot springs. we enjoy taking a bath, too. Many people visit Matsumoto-jo castle. There is a shopping mall near a big park. We can have meals and watch many movies there, too. This is our city.

A先生は授業後、Bさんが書いた英文を読み、表現内容の適切さという思考・判断・表現の観点で評価しようとしたのですが、「十分満足できる」状況なのか、「おおむね満足できる」状況なのか、迷ってしまいました。先生方は、どう評価しますか？

単元を進める中で、A先生は再度「書くこと」の言語活動を行い、Bさんが自分の考えを英文で書きました。

<日本の食や歴史に興味がある ALTにこの街を好きになってもらえるように自分の街について紹介しよう>

Our city is famous for a castle. That is Matsumoto-jo castle. It was built about 500 years ago. You can learn about the life of Samurai at that time there. After visiting there, why don't you have special soba near the station? Please try them. I will be happy if you enjoy staying in my city.

2つの英文の違いは、具体的にコミュニケーションにおける目的や場面、状況等が設定されているかどうかです。それらが具体的に設定されることで、Bさんは表現意欲がより喚起されたり、英語表現や表現内容をより深く考えたりすることができました（2つ目の英文内の下線部が、英語表現や表現内容の工夫の具体と言えます）。また、A先生にとっては、その設定が言語活動等で指導する際の視点になりました。

「書くこと」の思考・判断・表現を評価する際、表現内容の適切さを判断する基準が必要になります。その基準に、コミュニケーションにおける目的や場面、状況等がなりうると思います。つまり、思考・判断・表現を評価する際には、適切さを判断する基準となりうる目的・場面・状況を設定することが必要なのです。

具体的なコミュニケーションにおける目的や場面、状況等を設定することは、言語活動等を通して指導する時においても、学習評価する時においてもどちらにとっても大切なんだね！

